



令和3年9月30日発行 第26号

題字:今井綾子(高女28回)



支部長挨拶

何とかなるの声が聞こえて

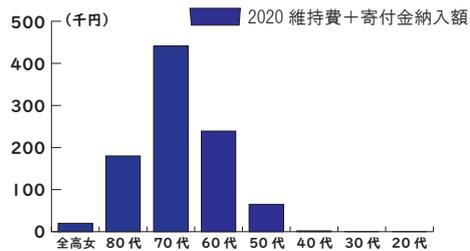
東京支部長 内田眞理子

皆さま こんにちは

日頃は支部同窓会活動に對しましてご協力をいただきありがとうございます。昨年度同様、コロナ禍が収まらない中でスタートとなりましたが、コロナに背中を押され初めてリモート役員会を始めることとなりました。Zoomを使つての会議は家にいる格好そのまま、声もよく聞かえてなかなか良いのですが、持ち寄りのお菓子でも食べながら意見を交わす、そんな風景も懐かし、対面も併せて効率よく作業が進められればと思います。

ところで、支部活動にはいくつかの問題があります。図のように世代間の差は明らかであり、さらに母校の統合問題なども絡み、今後どう組織を持ちこたえさせていくかが課題となっております。また、役員が多くが仕事を続け、介護も抱えるなどの事情を共有するだけに、なり手を探す負担もあり就任を敬遠される場合が多いのです。外部に同窓会活動を委託するなど、打つ手はあるのか

もしれませんが、そんな中でも誰かがやらなければと集まってくださる役員には本当に感謝です。



悩みはありますが、昨年70周年を迎えた東京支部は大正12年に8名の先輩方によって産声を上げており、厳しい時代を経て100年の間守つてこられた諸先輩方のことを思えば、樂觀を決め込み、何とかなる、と明るくまわりたいと思います。皆様にもどうか、資金的、時間的、能力的にできる範囲で温かいご支援をお願いいたします。

今後ワクワクンがいきわたり、感染者数も収まってくれば総会の開催も可能になります。その際にはお会いできますことを楽しみにしています。

本部だより

諏訪二葉高校同窓会長 伊藤文

今年度同窓会主たる活動

- ① 〈理事と二葉生へのアンケートの実施〉② 〈同窓会が二葉生のために地域の力を借りて行う活動の実施〉③ 〈地域の方も聴講できる講演会の実施〉



書道部作品

母校の様子・現在713名(男子287名女子426名)が学んでおり、今年度は各種大会が少しずつ行われるようになり、多くの部活動が成果を上げています。

二葉祭・今年度も外部公開なしでの実施となりましたが熱気あふれる3日間になったようです。

進路状況・力を入れているキャリア教育の成果が始め、生徒たちは明確な進路目的や具体的な職業観をもって自己実現を果たしています。東京支部の会員の皆様にもぜひ母校の生徒たちの未来のためにお力をお貸しください。情報がありましたらぜひ同窓会にお知らせください。

東京支部の皆様へ・安心して行き来ができるようになったら、ぜひ母校にもお立ち寄りいただき明るくはつらつとした先輩を見てください。それではどうぞお元気で過ごしてください。

恩師となられた同窓生に伺って

青木朋江（6回生）

- 1 さいたま市・富士見市立中学（数学教務主任）富士見市立諏訪小学校（教頭）・所沢市立安松小学校（校長）・筑波大教育学部非常勤講師、学校経営
- 2 60余年前の厳しい現実の中で自立して自己実現を図りたいと真剣に願った若い女性が自然に辿り着いたのがこの道であった幸せでした。多くの教え子と大恩ある師友との交わりを通じて得たものの大きさを思わぬ日はありません。定年退職後の十数年間、東京学芸大、日本女子大、放送大学の非常勤講師として教職志望の若者と交流できたことは大きな喜びです。
- 3 相模原市立小20年・中学6年国語

落合洋子（7回生）

- 1 相模原市立小20年・中学6年国語
- 2 敗戦を機に憲法で男女同権が保証され、教職で自立して自由に生きたいと願った。子供達からエネルギーと幸せを沢山もらい全国から採用された教師達と学び楽しい教職でした。

小林郁子（8回生）

- 1 東京都小学校38年
- 2 女性として自立した職業と思った。当時信州は教員が過剰で就職できず試験にパスした東京都に就職。教育界の信州教職に就けずに残念です。
- 3 共働きで主婦業と両立できたことは意義あることでした。

中村美智子（10回生）

- 1 江東区立中学 数学

- 2 人を育てる事に喜びを見出せると考えた。毎日が苦しさで楽しさの連続でした。やりがい多く、楽しい思い出が作れました。

秋田中子（12回生）

- 1 白梅学園高等学校校長 数学
- 2 父が教師であったから（二葉 五味智）。小学担任が本当に暖かで子供をのびのび教育して下さり心から尊敬しておりました。苦労はありましたが、やりがいある楽しいものでした。いつの時代もそれに対応した問題もありましたが、生徒と共に頑張ってきたらと思えます。子育て両立も大変でしたが。

加室弘子（12回生）

- 1 都立武蔵高校 保健体育
- 2 高校在学中にバスケット部に魅力を感じ入り部。先輩達の文武両道による自己改革、人格形成に憧れる。
- 3 新規採用は定時制か島嶼が原則なので、定時制に着任。自らの高校生活には想像さえできなかった勤労青年の厳しい現実を目の当たりにする。教師の人事管理では、男女差が顕著で、管理職登用・育児制度なく、早期職場復帰に疑問。自ら管

江原美規子（14回生）

- 1 都立武蔵高校 保健体育
- 2 高校在学中にバスケット部に魅力を感じ入り部。先輩達の文武両道による自己改革、人格形成に憧れる。
- 3 新規採用は定時制か島嶼が原則なので、定時制に着任。自らの高校生活には想像さえできなかった勤労青年の厳しい現実を目の当たりにする。教師の人事管理では、男女差が顕著で、管理職登用・育児制度なく、早期職場復帰に疑問。自ら管

今回の企画に際し、8回生の宮川様にご相談したところ、教職経験者のお名前を定みなく挙げていただきました。職業柄、名前をすぐに覚えることが大切だったのでとのこと。そんな宮川様のご活躍の一端を書いていただきました。そこからは、多様性を大切にして生徒を守り育てていくという一貫した姿勢が感じられます。

1 主な赴任先と専門

2 教師を目指した理由

3 教師になられて

帰国生徒の体験を共有財産に 受入れの大切さ

宮川秀世（8回生）

昭和58年以来、文部省の海外帰国子女教育推進地域（世田谷区）指定センター校として帰国子女を受け入れ、彼らが一日も早く日本の環境に適應できるように温かく包容力のある「思いやりのある人」の育成を目指した。昭和63年、国際理解の推進に向け、特別活動指導の工夫を実践することとなった。目指すのは広い視野に立ち意見を述べ、誰とも協力して仕事ができ、地域や学校の生活を大切に

など多岐にわたる相談と関わることとなった。それらは帰国子女に限らず、教師として道を歩み始めた時から「何とかしてあげなければ」と願わずにはいられない生徒に対する私の姿勢であったと思う。

1 江東区立小 家庭科・都立教育研究所 研究生・世田谷区立弦巻中学校 家庭科特活

2 二葉で学んだ「自立した女性」として生きたかった。それには男女格差がなく対等に仕事ができる職業で、女性が故に可能な教科Ⅱ家庭科を選択。これも宮本百合子著「若き女性のために」を社会部で読書会に取り上げられていたから影響されたのでしうか？

3 お陰様で今年85歳。省みて良き時代を歩めて幸せでした。約60倍の難関突破で得た職場が江東区内の小学校（昭41）期待に反して閉塞的、封建的雰囲気になり、落胆して一念発起！世田谷区立中学校へ転勤、ここから全力投球の日々でした。

する生徒像である。教科指導では、思考型学習形態への工夫や自らの意見を発表し結論を導き出す能力を育むこと、特に帰国生が生き生き活動する場面を提供することとした。特別活動では習得してきたコトバを生かし意見発表会を学級、学年で開催し、海外で体験した事を述べ、補習学級では、思う存分得意言語で話すことができる時間を提供。土曜午後は私服でのびのびとできるat homeな時間を保証し、十分に時間をかけて相談をできるようにした。平成15年に世田谷区帰国外国人教育相談室を立上げ「安心して帰ってきてください」をモットーに帰国学習、進路、受験、学校生活、親子関係

理職を目指し教育現場を改革。

木下早苗 (15回生)

- 1 小学校特別支援学校(川崎市立大戸小・田島支援学校・総合教育センター)
- 2 ともかく学校が楽しく大好きだった
- 3 特別支援学校で最重度の子供も受持ち、生きる事の根本を教えられた。今学校がどの子にとっても楽しい所になっていないのが残念です。

小嶋千津子 (17回生)

- 1 都内区立小学校
- 2 自立
- 3 1969年から36年間、子供達と夢中で過ごしました。良い時代でした。皆様に感謝です。今の先生方の大変さを感じます。子供達が笑顔で暮らせる時代に。

柏原(小口) 文子 (22回生)

- 1 33年所沢市小学校26年書写指導、展覧会主任
- 2 中学時、父を亡くし、父の勤務中学の先生方に勧められて。
- 3 二人の子供を育てて、56歳で退職後、書写、水墨の指導に呼ばれ、多くの親子供、同僚に育ててもらった。

伊東みふね (22回生)

- 1 杉並区立井草中、八王子、府中等 国語
- 2 高卒後、諏訪精工舎に勤めたが、設計部にて関心や技術なく、大学を目指す。女性の職業は教師しか思い浮かばず
- 3 教える事、生徒や父兄との関りが楽しく。会社員や夜大学の経験も役立った。

石上(田中) 美保 (23回生)

- 1 台東区、江東区、江戸川区小音楽
- 2 子供の頃から歌うことが大好きで子供と

関わるのも好きだったので、音楽を通して子供達と関わる仕事がしたく、小学校の音楽専科の道を目指した。

- 3 「楽しくなければ音楽でない」をモットーに音楽を教えながら子供達から沢山パワーと幸せを戴いた掛け替えのない38年間の音楽教諭人生でした。巣立った教え子にとって音楽が人生に常に寄り添うスパイスのような存在であればと願っています。

神長こぎく (24回生)

- 1 埼玉県東部、さいたま市の中学 社会
- 2 大学で学んだ歴史学(生徒の生き方に繋がる)を生かせると考えた。二葉で学んだ自主・自立の精神を生かせる男女平等の職業であった。研究者でもある小学時の恩師が子供達の教育環境を熟知しており、社会との繋がりや経済を教えて下さり、視野を広げてくれました。
- 3 朝から晩まで忙しく、一人ひとりに違いがあり、うまくいかないことも沢山ありましたが、やり甲斐のある仕事でした。

岡田光子 (27回生)

- 1 私立の中等高等学校 数学
- 2 特に教師を目指していた訳ではなく、子供が小学生となりパートを探し始め、勤務時間を選べ好条件であったこの仕事に未経験ながら就きました。
- 3 非常勤なので生徒と密接に関わり合うことはありませんが、どこで教えても教える子は可愛いと思えます。数学は苦手な子も多いのですが、生活していく上での知識を何とかして身に付けて送り出したい。60歳を超えて高校生と接することは面白く楽しんでいます。

教育の道を歩んで

内田志づ子 (21回生)

昭和48年、保健体育科教諭として八王子市に新設された都立高校に奉職しました。以後、専門教科(保体)の指導、学級担任業務、学校行事(文化祭や体育祭ダンスコンクール)指導、部活動(バスケット部)指導、進路指導等を通して、教える喜びを満喫し、生徒と共に自身も教師として成長してきました。

教職25年目、仕事との両立に苦労した子育ても一段落し、さあこれから「教員人生第2ステージへ」という時に、現行の高校教育に何か違和感を覚えました。教育内容が真に子供の未来を考えたいものになっていない、高校生活のゴールが受験・大学合格でよいのだろうか、子どもが中心ではなく教師のための学校運営になっている……このまま教師を続けていくのか迷っていました。思い切って教育管理職試験を受け、学校経営に携わる道を選びました。その後、教頭職、教育行政職を経験し、都立高校2校の校長を務め、平成23年に退職しました。

高校教育の真髄はバランスのとれた教育活動を通して、信頼しあえる人間関係を作り、自律性を促し、自信をもって社会に巣立っていく力をつけることです。現状満足に埋没していた私でしたが、管理職になったことで「教育は社会を変えられることができる」という理念を持つようになり、校長になり自身の裁量権が広がったことで、少しは「教育への熱い思い」を実現することができたのかなと思っています。

- 1 都立高校5校(教諭・教頭)・都立小平高校(校長)・都立立川高校(校長)
- 2 高校時代、生徒会長を経験し、教師が天職ではないかと感じた。当時の女性の職業としては教員が一番伸び伸びと働くことができると思った。
- 3 15、16、17歳の生徒と共に、いつも夢を語り、その成長する姿を見守ることはとても楽しかった。生徒理解に苦しみ、辛いこともあったが乗り越えた達成感は格別であった。教師の世界でもキャリアを積むことができたのは幸運であった。

新入生歓迎会、志づ子校長のモノマネが披露される……親しみ溢れる校長が掲げる自主・自律の理念は生徒達にしっかりと根付いていました。個を尊重し他者に寛容であれ、何事にも自律して動ける人であれ。

「志づ子校長の下、先生方も生徒も皆この理念を共有していた気がする。志づ子校長がおられたあの時代に在籍できたことを幸運に思う」と娘が懐かしそうに語る。志づ子校長の退任後、新校長の下、志づ子校長口が続いた……

内田校長が二葉の大先輩であることを知ったのはずっと後、会報に支部長として掲載されたお名前を拝見した時でした。今回の特集で皆様のお子様への恩師がおられましたら幸いです。ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。